

「施設」も選択肢の一つに

遠距離介護セミナー

NPO法人パオッコ(東京都文京区)は(財)住友生命福祉文化財団と共同主催で10月20日、東京都品川区で「遠距離介護セミナー2013東京『離れて暮らす親の介護を考える』」を開催した。

介護サービス 入居前に体験を

第一部ではパオッコの

太田差恵子理事長とNPO法人青年後見推進ネットワークからの小泉晴子理事

事長が「介護場所として『施設』を考える」をテーマに講演を行った。

太田理事は「施設に入

れることが介護放棄になるわけではない」とし、仕事と親の介護を両立さ

せるためには「施設も選択肢の一つにいれながら、自分の生活を大事にしつつ親の介護場所を一緒に考えてあげることが重要」と述べた。

小泉理事長は「親に合

った住まいと一緒に選んであげることが遠距離介護で大切なこと」とし、

有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅、グループホームなどの高

▲太田理事長の講演の様子



齢者住宅の種類を解説し

また「デイサービスやショートステイ等の介

護サービスを入居前に利用して、他人に慣れても

を事前に見学して、子世代が抱える課題を考
え、予算の中で、特にケアマネジャー
の配置が手厚いとの連携や金銭的な問
題、成年後見制度の利用
「施設」を考えるなど多くの人が悩む問題
に心がかかるべきについて議論された。
ことや選び方のコツを参加者に伝え
た。

「ケアマネと連絡する
母がグルになっているの
ではないかと感じてしま
うため、それを思わせな
いようにケアマネと連絡
をとっていた(体験者)、
親の介護場所を在
宅や施設に決めた
「お金ありきの介護だ
が、それが忘れられがち。
経済状況に合わせて選択
肢も考えていかなければ
ならない」(社会保険労
務士)、「家族がいる場
合でも第3者である成年

体験者2名と長野県を中
心に介護事業所を運営す
るケアマネジャー、社会
保険労務士が登壇し、デ
スカッションが行わ

後見をいれることで、親
の財産を冷静に使うこと
が出来る(小泉理事長)
という経験談・意見が述
べられた。